

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

I. 理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

事業所番号	2791400068
法人名	特定非営利活動法人あそびりクラブ
事業所名	グループホーム あそびりクラブ 西小路の家
訪問調査日	平成 21 年 11 月 10 日
評価確定日	平成 21 年 12 月 18 日
評価機関名	NPO法人 ナルク福祉調査センター

○項目番号について
 外部評価は30項目です。
 「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。
 「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。
 番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

○記入方法
 [取り組みの事実]
 ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。
 [取り組みを期待したい項目]
 確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。
 [取り組みを期待したい内容]
 「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明
 家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
 家族 = 家族に限定しています。
 運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。
 職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みません。
 チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	2791400068
法人名	特定非営利活動法人あそびりクラブ
事業所名	グループホーム あそびりクラブ西小路の家
所在地	大阪府箕面市西小路三丁目11番6号 (電話)072-725-9250

評価機関名	特定非営利活動法人ニッポン・アクティブライフ・クラブ		
所在地	大阪市中央区常盤町二丁目1番8号親和ビル402号		
訪問調査日	平成21年11月10日	評価確定日	平成21年12月18日

【情報提供票より】(平成21年10月19日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	平成 20 年 12 月 1 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	14 人	常勤 4 人, 非常勤 10 人, 常勤換算 8.5 人	

(2)建物概要

建物構造	鉄筋木造	造り
	2階建ての	階 ~ 2階部分

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	60,000 円	その他の経費(月額)	30,000 円	
敷金	有()円 ○無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(500000 円) 無	有りの場合 償却の有無	有	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり 1500 円			

(4)利用者の概要(10月19日現在)

利用者人数	9 名	男性	名	女性	9 名
要介護1		名	要介護2	1 名	
要介護3	5 名		要介護4	1 名	
要介護5	2 名		要支援2		名
年齢	平均 88.6 歳	最低 82 歳	最高 95 歳		

(5)協力医療機関

協力医療機関名	たけぐちひまわりクリニック、大前歯科医院、箕面市立病院 箕面正井病院 阪和病院
---------	--

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

当事業所はよい介護がしたいという思いで長年のボランティア活動から発展して、地域に待ち望まれて生まれたNPO法人のグループホームである。全職員がこの精神を忘れずに日々の介護で、明るく活気ある何処にも負けない優れた施設にしたいと頑張っている熱意は利用者・家族に心から信頼されている。利用者は地域の祭りや文化展などの行事に参加している。またホーム主催の講演会や音楽会等は沢山の地域の参加者で盛り上がり、よき交流が深められている。職員はホームを大きな家族と捉えてドライブや外出の機会を多く持ち、共に快活に暮している。ホームは生活に便利な環境に立地して、医療面も24時間対応の協力医院が1階にあり心強い。今後は「認知症について」地域へ発信して行きたいと意欲的である。

【重点項目への取り組み状況】

	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	平成20年12月が開設で、今回は初めてのサービス評価への取り組みであった。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	管理者は全職員にサービス評価の意義と目的を話し、之までの支援を省みるよき機会と捉え職員から日々の支援や意見を聞き取って自己評価を作成した。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 運営推進会議は開設2ヶ月目から市高齢福祉課、地域包括センター、民生委員、認知症家族会、利用者、家族、職員の出席で2ヶ月に一回開催されている。会議ではホームの現状の報告や行事の取り組み等を職員によるスライドショーで説明したり、運営のあり方等について様々な意見交換を行っている。出された意見・要望はその後の支援で質の向上を目指す取り組みをしている。
重点項目③	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) 家族の訪問が多く、利用者の家族もホームのボランティアに来られたり、いつでも要望や意見は本音で話し合える関係が出来ている。家族には運営推進会議などに出席し要望や意見を出すように努力している。意見、要望が出された場合は本人、家族とよく話し合って解決している。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 天気のよい日には出来るだけ近所への散歩、買い物に出かけ、近隣の人との出会いの場や会話を楽しむ機会を作っている。地域のホームへの理解は深く、利用者は祭りや行事などに積極的に参加している。ホームの見学会や多彩な行事開催には地域の方々の参加者も多い。職員は地域住民との関りを積極的に持つ努力をしている。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	管理者と職員は地域密着型サービスの社会的役割は理解しているが、法人の理念そのままが使われ掲示されている。事業所独自の現状にあった明確な理念が足りていないことが大切である。	○	利用者が地域で安心して暮らし続ける地域密着型サービスとしての意義と役割を考えて、事業所としての理念を独自に作り上げることが求められます。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎週、職員はミーティングで気付いた事や意見を話し合い、確認をしながら理念に沿って支援している。理念は職員が日常的に目にする玄関、リビングに掲示している。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	毎日の買い物や散歩で地域の人との挨拶で顔なじみになり交流を図っている。地域の祭りの参加や作品展に出展したり、ホームを開放して見学会や「いきいき地域づくりの講座」の開催やチャリティーコンサート等、事業所独自の多彩な行事を開催して積極的に地域社会と触れ合う機会をつくる努力をしている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	今回は初めての外部評価の実施である。管理者はサービス評価の意義と目的を全職員に解りやすく説明し、日々のサービスの提供場面をふり返り全員で自己評価に取り組んだ。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に一回の運営推進会議を行っている。民生委員、地域包括支援センター、地区福祉委員、市高齢福祉課、本人と家族、職員で開催されている。ホームでの生活、行事、問題について率直な意見を仰ぎ、そこで出された意見、要望はその後のサービス向上に活かすように努めている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	開設当初から役所の協力と助言を多く頂き、良好な関係である。事業所の考え方、ケアサービスの取り組み等、何か問題があればすぐ連絡を取り合い良い関係作りに努めている。そこで得たいろいろな情報はサービスのレベルアップに繋がっている。		
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月「西小路便り」を発行して、利用者の健康状態や金銭管理報告書や日常生活を詳細と一緒に纏めて定期的に報告している。家族の訪問時には介護計画や行事、近況報告など説明している。緊急の場合は電話やFAXなどで連絡を密に行っている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族とは日ごろからよいコミュニケーションを取るよう心がけている。利用者の家族もボランティアで来られているので常に家族と連絡できる環境にあり本音で語り合っている。家族には運営推進会議への参加を求めそこでの家族からの要望、意見はその後の支援に速やかに取り入れている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	離職はなく、落ち着いたおだやかな環境の下で馴染みの職員による支援が受けられている。ホームはいつも明るく、笑いの絶えない生活に本人と家族は安心した暮らしが出来ている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部・外部研修に積極的に参加を促し職員教育の充実を図り質の向上と意識改革を行っている。職員の年間計画の研修費の補助額を設定して職員の質の育成に取り組んでいる。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内のディサービスやデイケアとの交流は行っているが、他事業所との交流は出来ていない。同業者のネットワークはまだ作られていない。情報を協働しながら質向上に取り組むのに大事であるので、今後の課題として取り組まれることを期待したい。	○	開設一年目で同業者との交流に余裕も無かったと推察するが今後は同業者の事業所との交流に積極的に参加してサービスの質向上に取り組まれることを期待したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用者・家族には入居前に十分な説明をし理解と納得の上で入居していただく体制をとっている。入居後は場の雰囲気になれて問題なく落ち着いた暮らしをしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	日常の支援の中で掃除、調理の仕方、礼儀作法など多くを学ぶ場面があり、職員は助け合う関係を大切に人生の先輩として楽しみを共有しながら喜怒哀楽を共にしている。		
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ミーティングや会議の時に利用者に対する気づきを出し合い、利用者の希望や意向を明確に把握し本人本位の支援を出来るように職員は努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	各種の個別ケア情報を収集したこれ等を基に利用者。家族・主治医・看護師・職員等、関係者の意見・希望・要望を聴きながらケアプランが作成されている。計画作成後に本人・家族に説明をして署名捺印を頂いている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画の見直しは半年に一度の見直しをしている。変化が生じた場合は随時見直しをして現状に即した介護計画に変更をしている。モニタリングは3ヶ月ごとに見直しをしているが今後は毎月の見直しの実施を考えている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人・家族の希望で医療機関への受診の同行や役所への書類手続きの代行・事業所の行事で遠出などその時々で必要なサービスの要望に柔軟に応え支援している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者・家族の希望に沿って医療機関は受診出来るようにしているが、建物一階に医院、近くに訪問看護ステーションがあり、24時間体制で主治医又は看護師と連絡が出来るので安心である。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	利用者が重度化した場合には協力医療機関と看護師・家族と連携をとり、本人・家族の望む場所で最後まで暮していけるように対応しますと重度化対応の指針をはっきりと出している。開設当初に終末期の利用者を職員は一丸となって看取った経験があり、その時の経験が後の支援の自信となっている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	日常の支援の中で利用者の尊厳を損ねることのないように言葉かけや対応には気をつけるようにしている。記録などの個人情報については事業所での介護サービスの提供以外の目的では原則的に利用しない事と管理を徹底している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の生活リズムに配慮し、その日の気分や体調を見ながら無理強いせず、その利用者に合わせて日々の暮らしがその人らしいものとなるように支援をしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員は「食の愉しみ」を第一に考えて、家庭料理の味と季節感を感じる食事を提供している。利用者個々の力を活かしながら買い物や食事づくり、後片付け等を職員と一緒にやっている。ミニ菜園で収穫した野菜が食卓にのり共に食することが楽しみの一つになっている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	最低週3回は入浴出来るように支援している。毎日でも入浴の希望者があれば柔軟に対応して入浴を楽しめるようにしている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者は家事や買い物、菜園の世話など出来る範囲で楽しんで手伝っている。ホームでは単調な暮らしにならない様に季節感を味わう行事を毎月行っている。またボランティアによる協力で油絵、お菓子づくり、お化粧品、ドッグセラピー音楽療法の取り組みは利用者の楽しみと喜びになっている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天気の良い日であれば毎日のように散歩、買い物に出かけるように支援している。ドライブや外食・夜のコンサート等、楽しめる外出の支援にも積極的に取り組んでいる。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	夜間帯以外は居室及び玄関の鍵はかけないようにしている。身体拘束をする場合については入居時に「緊急やむを得ない場合の身体拘束に関する説明書」をもって説明し、家族の同意を得ている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	事業所内には火災受信機、消火器の設置はされている。職員間で避難誘導策を決めて、独自の避難訓練実施をされている。近隣住民の協力依頼は開設当時からなされている。近々消防署の協力の下、避難訓練を実地する予定です。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	調理専門職員により利用者の好み、苦手なものが把握され、栄養が偏らない手づくりの料理が提供されている。バイタルサイン、食事、水分摂取量、排泄状況は個別に「介護日誌・生活記録」に記録されている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
		○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を取り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	みんなの集るリビングは広く明るい。室内は季節の花や植物で飾られている。廊下には利用者個々の油絵、水彩画、行事写真が飾られ、ソファも置かれて心地良く過ごせる場を整えている。食堂から眺められるベランダの季節の花、植物には気持ちが癒されている。		
		○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は家族の協力を得ながら使い慣れた馴染みのタンスや椅子、家族の写真等が持ち込まれて、自宅にいた時と同じような家庭的雰囲気と従来の生活を醸し出す工夫がされている。		